

TOYOTA

整備手帳 保証書

点検整備のためのガイドブックです。必ずお読みください。

自家用乗用車
常時携行

保証書

2. 名義変更
使用地変更
登録変更

3 抹消

ふりがな

おなまえ

おところ

〒

TEL

様

車台番号

登録番号

初度登録日

年 月 日

保証
継承日

年 月 日

保証継承時
走行杆

km

担当営業スタッフ

販売店名
(認 印)

テクノショップ
(支店、営業所)

住所

TEL

1

ふりがな

おなまえ

おところ

〒

TEL

様

型式名(車種)

車台番号

登録番号

初度登録日

年 月 日

登録時走行杆

km

担当営業スタッフ

販売店名
(認 印)

テクノショップ
(支店、営業所)

住所

TEL

宮脇正治

トヨタオート南海株式会社

堺 支 店

堺市北三国ヶ丘町6丁5番4号

電話0722(33)3561(代表)

スピードメーター交換

年	月	日			km
年	月	日			km

* 下記の方で保証期間が残っている場合には、もよりの販売店で記載事項の変更を行ってください。これにより残りの期間を保証いたします。

- ① 名義変更.....車を譲り受けられた方
- ② 使用地変更.....使用地を変更された方
- ③ 登録変更.....登録番号を変更された方

* 販売店で取り付けた下記の部品(○印)については、この保証書とは別にお渡ししてある保証書にもとづき保証修理を行います。

- 1. エアコン(クーラー)
- 3. ラジオ
- 5. 自動車電話
- 2. ステレオ
- 4. エアビュイザー
- 6. その他()

おクルマの定期的な健康診断は

点検整備について

安全で快適なカーライフを楽しんでいただくためにはおクルマの定期的な健康診断が必要です。

1 法律で定められた点検整備

■ 運行前点検

法律によって定められている1日1回、運転の前に行う点検です。
点検のしかたは15ページの「運行前点検について」をご覧ください。

■ 定期点検整備

自家用乗用車の場合、定期点検整備（6か月点検、12か月点検、24か月点検の3種類）のすべてを行うことが定められています。
・新車の6か月時にはトヨタ販売店にて無料で点検を実施します。

2 トヨタが指定している点検整備

■ 新車1か月、6か月無料点検

登録日から1か月（ただし、1か月以内に1,000kmをこえる場合は1,000km時点）と6か月（ただし、6か月以内に10,000kmをこえる場合は10,000km時点）の2回、トヨタ販売店にて無料で点検を実施します。

■ 定期交換部品、期間・走行距離による点検整備

車に使われている部品には外観上異状が認められなくても、経年変化により劣化するものがあります。定期交換部品は安全を確保するためにトヨタが定期的に交換することをおすすめしている部品です。

車検(継続検査)について

1回目は登録後3年目に、2回目以降は2年ごとに行います。

※車齢が11年をこえると1年ごとになります。

詳しくは販売店にご相談ください。



定められた点検・整備を実施されていないと、保証修理をお断りすることがございます。

3 点検整備方式

点検整備方式とは、前ページの①法律で定められた点検整備、②トヨタが指定している点検整備の点検整備項目と点検時期をまとめたものです。

(例)

点検整備項目	点検整備時期					交換時期(年)	備 考
	走行前点検	高圧走行前点検	新車点検	1年点検	2年点検		
点火装置 1. 点火プラグの状態	●	○	○	●	●		「ディーゼル車」又は「白金プラグ」は点検不要
潤滑装置 1. 油の汚れ及び量 2. 油漏れ 3. オイルの量 4. オイル交換	○	○	●	●	●	(5) (15) 年1	(5) (15) 年1

点検整備方式の見方

- は法律で定められた点検時期を、○はトヨタが指定している点検時期を示します。
- 「走行キロごとの整備」は使用期間より走行距離で点検または交換した方がよい部品の点検距離を示します。
- 「交換時期」は定期的に交換した方がよい部品の交換時期を示します。

点火プラグの状態

点火プラグは、12ヶ月毎に点検します。ただし、ディーゼル車や白金プラグ搭載車については、この項目は点検しなくてもよいことを表わしています。

油の汚れ及び量は

法律で定められた6か月、12か月、24か月点検のほか、トヨタが新車時1か月、6か月の点検を指定しています。

オイル交換は

記載してある走行距離または交換時期に行います。なお、走行距離と交換時期が併記されている場合は、どちらか早い方で行います。

《抜粋》 点検整備方式の表より

● オイル、冷却水、フィルター、タイミングベルトの交換時期

部 品 名	交換時期
エンジン・オイル	ガソリン車 SE・SF・SG級 1万5千kmまたは12か月 ディーゼル車、ターボ車 5千kmまたは6か月
ブレーキ・フルード	2(3)年
冷却水(LLC)	2(3)年
エンジン・オイル・クリーナー(フィルター)	ガソリン車のSE・SF・SG級オイル使用時 1万5千km 上記以外のオイル使用時 1万km
エア・クリーナー・エレメント	5万km
燃料フィルター	ディーゼル車 6万km
タイミングベルト	10万km

[] は第1回目の交換時期を示します。

● 油脂フィルター類の交換時期は車両によって異なる場合があります。必ず車両に貼付されているラベルでご確認ください。

● 車検時の交換部品

1 回 目	2 回 目
<ul style="list-style-type: none"> ブレーキ・フルード 冷却水(LLC)など 	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキ・ホース マスタ・シリンダのカップ、ブーツ等ゴム部品 ドラム・ブレーキのカップ、ブーツ等ゴム部品 ディスク・ブレーキのキャリバのシール、ブーツ等ゴム部品 燃料ホース(ディーゼル車)など

おクルマの定期的な健康診断は

■点検整備方式

この表の点検整備時期は6か月で10,000km程度走る車で、とくに悪路など過酷な走行をしない車両を対象に定めてあります。したがって、著し

く走行条件が異なる場合は、この時期より早めに点検整備をすることが必要です。

点検整備項目	点検整備時期				交換時期(年)	備考
	走行前点検	高速走行前点検	新車時点検	日常点検		
ハンドル						
1. 遊び、緩み及びがた				●		
2. 操作具合				●		
ギヤ・ボックス						
1. 油漏れ		○		●		
2. 取り付けの緩み				●		
ロッド及びアーム類						
1. 緩み、かた及び損傷				●		
2. ボール・ジョイントのダスト・ブーツの亀裂及び損傷 (サスペンション・ボール・ジョイントを含む)				●		
ナックル						
1. 連結部のがた				●		
かし取り車輪						
1. ホイール・アライメント				●		
2. 左右の回転角度				●		
パワー・ステアリング装置						
1. ベルトの緩み及び損傷		○	●	●		「電動式」又は「キヤリ駆動式」は点検不要
2. 油漏れ及び油量		○		●		
3. 取り付けの緩み				●		

点検整備項目	点検整備時期				交換時期(年)	備考
	走行前点検	高速走行前点検	新車時点検	日常点検		
ブレーキ・ペダル						
1. 遊び及び踏み込んだときの床板とのすき間			○	○	●	
2. 踏みしろ及びきき具合	●	●			●	
3. ブレーキのきき具合			○		●	
駐車ブレーキ・レバー						
1. 引きしろ	●	●	○	○	●	
2. ブレーキのきき具合					●	
ロッド及びケーブル類						
1. 緩み、かた及び損傷					●	
ホース及びパイプ						
1. 漏れ、損傷及び取り付け状態		○	○		●	
2. ブレーキ・ホース交換					●	☆
リザーバ・タンク						
1. 液量	●	●	○	○	●	

- 1) 「●」は法律で義務付けられた点検時期を示し、「○」はトヨタが指定する時期を示します。
- 2) 使用開始から24か月ごとの点検項目、36か月目およびそれぞれ以降の24か月ごとの点検整備項目を実施します。
- 3) 「走行キロごとの整備(千km)」と「交換時期(年)」を併記している部品および油脂類は、そのどちらか早い方で交換します。
- 4) 「交換時期(年)」で「」は第1回目の交換時期を示します。
- 5) 「☆」は保安部品の定期交換時期を示します。
- 6) 「高速走行」とは80km/h以上の速度で走行する場合をいいます。
- 7) 備考欄の「○○」は点検不要項目について：該当する車両については、その項目は点検しなくてもよいことを表わしています。

点検整備項目

	点検整備時期						交換時期 走行キロ (km)	備考	
	走行前点検	高速走行前点検 新車時点検	月						走行前点検
			1 か 月	6 か 月	自 6 か 月 こ と	家 12 か 月 こ と			
マスタ・シリンダ、ホイール・シリンダ及びディスク・キャリバ 1. ホイール・シリンダ及びディスク・キャリバの点検 2. 機能、摩耗及び損傷 3. マスタ・シリンダ及びホイール・シリンダのカップ、ブーツ等ゴム部品交換 <ul style="list-style-type: none"> ●マスタ・シリンダのカップ及び、ブーツ等ゴム部品交換 ●ホイール・シリンダのカップ及び、ブーツ等ゴム部品交換 ●ディスク・キャリバのシュー及び、ブーツ等ゴム部品交換 4. ブレーキ・フルード交換				●	●	☆4 (5)			
他力装置 1. 機能					●	☆4 (5)			
ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー 1. ドラムとライニングとのすき間 (自動調整式は必ず点検のみで可) 2. シューの損傷部分及びライニングの摩耗 3. ドラムの摩耗及び損傷				●	●	☆4 (5)			
ブレーキ・ディスク及びパッド 1. ディスクとパッドのすき間 2. パッドの摩耗 3. ディスクの摩耗及び損傷				●	●	☆4 (5)			

点検整備項目

	点検整備時期						交換時期 走行キロ (km)	備考	
	走行前点検	高速走行前点検 新車時点検	月						走行前点検
			1 か 月	6 か 月	自 6 か 月 こ と	家 12 か 月 こ と			
ABS 1. 作動状態						○			
ホイール 1. タイヤの空気圧 2. タイヤの亀裂及び損傷 3. タイヤの溝の深さ及び異常な摩耗 (溝の深さは高速走行前点検のみ) 4. タイヤの金属片、石その他の異物 5. ホイール・ナット及びホイール・ボルトの確認 6. リム及びホイール・ディスクの損傷 7. フロント・ホイール・ベアリングの音がた 8. リヤ・ホイール・ベアリングの音がた 9. リヤ・ホイール・ベアリング・グリース交換 ※1	●	●	○	●	●	●	●		
シャシばね 1. 損傷						●			
取り付け部及び連結部 1. 取り付け部の緩み及び損傷 2. 連結部の音がた							●		
サスペンション・アーム 1. 連結部の音がた及びアームの損傷							●		

※1 ヴァーゼル、コルサ、カララII、スターレット、セワ、サイナス、カローラワゴン、スプリングワゴン

点検整備項目	点検整備時期					交換時期前	備 考	
	運行前点検	高速走行時点検	新車時点検					走行キロの整備(千km)
			1か月	6か月	12か月			
ショック・アブソーバ 1. 油漏れ及び損傷 2. 取り付け部のがた					●			
油圧式車高調整装置※1 1. 作動状態 2. 油漏れ及び油量 3. 取り付け部、連結部の緩み及び損傷		○			○	○		
油圧式車高調整装置※5 1. 作動状態 2. 油漏れ及び油量 3. 取り付け部、連結部の緩み及び損傷		○			○	○		
クラッチ 1. ベダルの遊び及び切れたときの床板との空き間 2. 作用 3. 液量		○	●	●	●	●	「オートマチック車」は点検不要	
トランスミッション 1. 油漏れ及び油量※2 (新車時点検は油漏れのみ) 2. 操作機構のがた 3. トランスミッション・セレクターバルクローカー・フッシュ・ダials垂布		○	●	●	●		2(3)	
プロペラ・シャフト及びドライブ・シャフト 1. 連結部の緩み 2. 自在継手部のダスト・ブーツの亀裂及び損傷					●	●	「ドライブシャフトの継手部一体型」は点検不要	

※1：セリコアクティブサスペンション装着車

※2：4WD車のトランスミットの油量点検

●トランスミッションと油室が別れている車両(50F搭載車およびA/T車)は単独で点検

●トランスミッションと油室が一体の車両(上記以外)は、トランスミッションの項で点検

※5：スプリンターカーブ

点検整備項目	点検整備時期					交換時期前	備 考	
	運行前点検	高速走行時点検	新車時点検					走行キロの整備(千km)
			1か月	6か月	12か月			
3. スプライン部のがた 4. 自在継手部のがた 5. センターベアリングのがた					●	●	●	
デファレンシャル 1. 油漏れ及び油量※3 (新車時点検は油漏れのみ) 2. オイル交換			○		●	●	※4 100	
点火装置 1. 点火プラグの状態 2. 点火時期 3. 断電器の状態 4. ディストリビュータのキャップの状態 5. 進角装置(進角機構を含む)の機能					●	●	「ディーゼル車」又は「白金プラグ」は点検不要 「ディーゼル車」は点検不要 「ディーゼル車」又は「無接点式」は点検不要 「ディーゼル車」又は「ディストリビュータ無」又は「一体式」は点検不要 「ディーゼル車」又は「ディストリビュータ無」または「電子進角式」は点検不要	
バッテリー 1. 液量 2. 液の比重 3. ターミナル部の接続状態			○		●	●	●	「密閉式」は点検不要
電気配線 1. 接続部の緩み及び損傷						●		

※3：デファレンシャルの油量点検

●トランスミッションと油室が別れている車両(FFのA/T車(除くA240L系、A240E系搭載車))は、単独で点検

●トランスミッションと油室が一体の車両(上記以外のFF車、および4WD車)は、トランスミッションの項で点検

※4：セリコGT-FOURのリヤデファレンシャルのみ

点検整備項目	点検整備時期					交換時期(年)	備考
	走行前点検		走行中点検				
	1か月	6か月	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと		
本体 1. かかり具合及び異常 (K/7車のレフト・パターン点検を含む) 2. 軌道及び加速の状態 3. 排気の状態 4. エア・クリーナ・エレメントの状態 5. 音すき面 6. エア・クリーナ・エレメント交換 7. タイミング・ベルト交換							
潤滑装置 1. 油の汚れ及び量 2. 油漏れ 3. オイルの量 4. オイル交換 5. オイル・クリーナ(オイル・フィルター)交換							

※1: () はディーゼル車、ターボ車、() 14SE、SF、S250オイル使用時
 ※2: () はディーゼル車
 ※3: ウィンダム、セプター、カムリとヒスタの4VZ-FE、2C-T搭載車
 ※4: ロータリッドのISC付エンジン搭載車

点検整備項目	点検整備時期					交換時期(年)	備考
	走行前点検		走行中点検				
	1か月	6か月	6か月ごと	12か月ごと	24か月ごと		
燃料装置 1. 燃料漏れ 2. キャンプリアのリンク機構の状態 3. スロットルバルブ及びチョークバルブの状態 4. 噴射ノズルの噴射圧力及び噴霧状態 5. 噴射時期及び噴射量 6. 燃料の量 7. 燃料フィルターの交換 ※2 8. 燃料ホース交換 ※2 (エンジン・ルーム内のみ)							
冷却装置 1. 水量 2. ファン・ベルトの緩み及び損傷 3. 水漏れ 4. ラジエータ・キャップの機能 5. 油圧駆動冷却ファンの油漏れ及び油量 ※3 6. 冷却水交換(LLC注入車)							
過給装置(4A-CZEのみ) 1. ベルトの緩み及び損傷 2. 油漏れ及び油量							

点検整備項目	点検整備時期					備考
	運行前点検	高速走行前点検	普通走行点検	自宅用	走行前点検	
ブローバイ・ガス還元装置 1. メーター・インテークバルブの状態 2. 配管の損傷					●	「ディーゼル車」又は「リファイブ付」は点検不要
燃料蒸発ガス排出抑制装置 1. 配管時の損傷 2. ナノコーヒル・キャニスタの詰まり及び損傷 3. オスコックバルブの機能					●	「ディーゼル車」は点検不要
一酸化炭素等発散防止装置 1. 触媒反応方式等排出ガス減少装置の取り付けの確実性及び損傷 2. 二次空気供給装置の機能 3. 排気ガス再循環装置の機能 4. 減速時排気ガス減少装置の機能 5. 配管の損傷及び取り付け状態					● ●	「ディーゼル車」は点検不要
熱害防止装置 1. 遮熱板の取り付けの確実性及び損傷					● ●	
灯火装置及び方向指示器 1. 作用 2. 点滅具合、汚れ及び損傷	● ●		○ ● ● ●			
賢容器、室拭器、洗浄液噴射装置、デフロスタ及び施設装置 1. 作用					● ●	
後 写 鏡 1. 写影の状態	● ●					

点検整備項目	点検整備時期					備考
	運行前点検	高速走行前点検	普通走行点検	自宅用	走行前点検	
反射器及び自動車登録番号標又は車両番号標 1. 汚れ及び損傷					● ●	
計 器 1. 作用					● ●	
エグゾーストパイプ及びマフラー 1. 取り付けの確実性及び損傷 2. マフラーの機能					● ● ●	
車輪及び車体 1. ドア・ロックの機能 2. 確実性及び損傷					● ●	
座 席 1. 座席ベルトの状態					●	
前日の運行において異状が認められた箇所 1. 当該箇所に異状がない事を確認	● ●					
そ の 他 1. ラッシュ各部の給油状態					● ●	

4 定期点検整備記録簿

記録簿は定期点検の結果と整備の概要を記入するものです。
記載後2年間は必ずおクルマに備えておいてください。

記入のしかた

実施する定期点検整備の点検時期を「○」で囲みます。

自動車を使用している方の氏名または名称と住所を記入します。(分解整備記録簿のみ)

自動車に備え付けの自動車検査証を見て記入します。

定期点検整備記録簿及び分解整備記録簿

か月定期点検整備

点検	交換	修理	締付	清掃	給油
○	×	△	T	C	L
調整	分解				
A	○				

6 () ()
12 () () () ()
24 () () () () () ()

●点検の結果及び整備の概要

●かじ取り装置

●タイヤの空気圧/タイヤの電装、損傷

測定結果

●CO, HC濃度(アイドリング時)

CO ppm

HC ppm

点検又は整備を実施した者の氏名又は名称

住所

検査を執行了した者の氏名

点検の年月日

整備を完了した年月日

点検時の総走行距離

km

2年間保存

図表は発動機の運送の用に供する軽自動車に限り、かつ月に点検を行わなければならない項目を示す。
は横線に定められていない項目を示す。

整備の際に交換した主な部品（ブレーキ液、ブレーキ・ホースなど）や測定結果（ブレーキ・ライニング、ブレーキ・パットの厚みなど）などを必要に応じ記入します。

点検または整備を実施した方の氏名（法人は会社名）と住所[※]を記入します。なお、点検と整備を実施した方が異なるときは、両者を記入します。

積算距離計をみて点検時における自動車の総走行距離の数値を記入します。

※使用者がご自分で点検または整備を実施した場合、住所の記入は必要ありません。

点検を実施した年月日、整備を完了した年月日をそれぞれ記入します。

点検の結果及び整備の概要

- 点検の結果、異状がなかった場合には、その点検項目のチェック欄(□)に「√」を記入します。
- 点検の結果、異状があり、必要な整備を行った場合には、右表の整備作業区分による「チェック記号」を用いてチェック欄に記載します。
なお、整備作業が重複して行われた場合には、少なくとも表中の記載順位が最も高いものを記載します。
- 点検または整備が分解を伴って行われたときは、「チェック記号」を○で囲みます。
(例)ライニングの摩耗を点検した結果、異状なしの場合は○と記入します。

「チェック記号」の意味と記入順位

記載順位	整備作業区分	チェック記号	意 味	作 業 例
	点検	√	点検の結果、異状がなかった。	
1	交換	×	点検の結果、交換した(部品、油脂、液類の交換作業を示す。)	・ブレーキ・ライニングの交換 ・ホイール・ベアリングの交換
2	修理	△	点検の結果、修理した(摩耗、損傷などのための部品を修理する作業を示す。)	・タイヤのバンク修理
3	調整	A	点検の結果、調整した(機能維持のため、遊び、すき間、角度などを基準にもとずく作業を示す。)	・ブレーキ・ドラムとライニングとのすき間調整 ・クラッチ・ペダルの遊び調整
4	締付	T	点検の結果、締めつけた(緩んだ箇所を増し締めする作業を示す。)	・ホイール・ナットの増し締め ・シャーンぼねのUボルトの増し締め
5	清掃	C	点検の結果、清掃した(粉塵、油などによるよれを取り除く作業を示す。)	・ブレーキ・ドラム内よれの清掃 ・バッテリーの端子部の清掃
6	給油	L	点検の結果、給油した(油脂、液類を補充する作業を示す。)	・バッテリー液の補充 ・シャシ各部の給油

7 点検整備のしかた

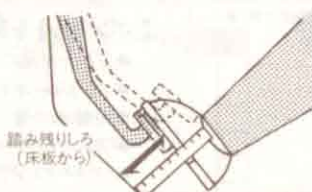
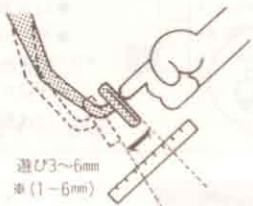
■ 運行前点検と6か月点検のしかた

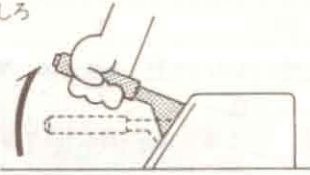

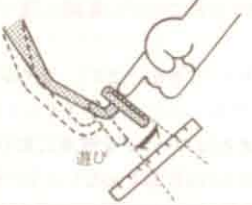
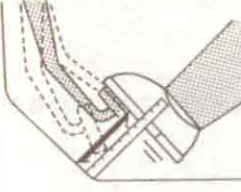




1. エンジン回転中は危険ですので次の部分には触れないでください。
・回転部分(ベルト、ファンなど) ・高温部分(排気管、ラジエーターなど) ・電気系統(プラグ・コードなど)
2. エンジンをかけた状態で点検する必要がある場合は、エンジン回転が下がってから行ってください。
3. 紙や布など、燃えやすいものはエンジン・ルーム内に置き忘れないようにしてください。
4. ホース配管、配線ははずさないでください。
5. 車体端部などで手にケガをしないように注意してください。

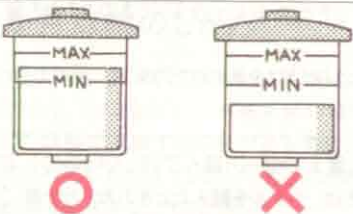
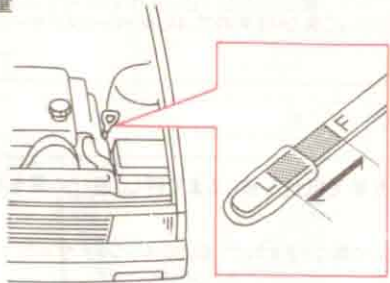
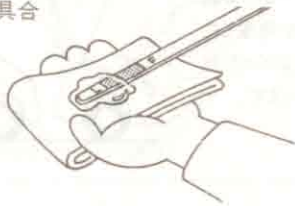
注意/

運転席にすわって

点検箇所・項目	点 検 方 法	運行前 点検	6か月 点検
ブレーキ・ペダル	<p>▶ 踏み残りしろ</p>  <p>エンジンを始動し、ペダルを強く(約50kg)踏み込んで踏み残りしろ(ペダル上面と床板(カーペットをめくった状態)とのすき間)をものさしなどで点検します。 ★ペダルを踏み続けたときに、ペダルがさらにはいり込むことがないことを確認してください。 ★踏み残りしろが少なくなっているときやペダルをいっぱい踏み込んだときの踏みこたえがやわらかく感じるときは、ブレーキ液の漏れ、空気の混入によるブレーキのきき不良や片ききのおそれがありますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>※ 踏み残りしろは車種によって異なりますので、35,36ページの「サービスデータ」を参照してください。</p>	●	●
	<p>▶ 遊び</p>  <p>ブレーキ・ペダルを手で抵抗を感じるまで押し、遊びの量をものさしなどで点検します。 ★エンジンを停止した状態で2~3回ペダルを踏み込んでから調べてください。</p> <p>※()内はビスタ、カムリ、ターセル、コルサ、カローラII</p>		●
アウター・ミラー インナー・ミラー	<p>▶ 写り具合</p> <p>運転席に正しい姿勢ですわり、後方や側方の状況が十分確認できる位置にミラーを調整します。</p>	●	

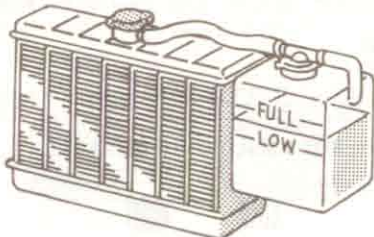

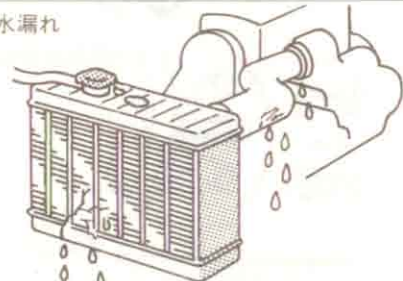
点検箇所・項目	点 検 方 法		運行前 点検	6か月 点検
パーキング(駐車)・ ブレーキ	<p>▶引きしろ</p> 	<p>レバーを止まる位置までゆっくり引いて(約20kgの力^(注))、引きしろが適当であるか調べます。ノッチとは、レバーを引くときのカチカチ音、「カチ」と1回音がすれば1ノッチです。 ※引きしろは車種によって異なりますので、35、36ページの「サービスデータ」を参照してください。</p>	●	●
	<p>▶踏みしろ</p> 	<p>ペダルを止まる位置までゆっくり踏んで(約30kgの力)、踏みしろが適当であるか調べます。ノッチとは、ペダルを踏んだときのカチカチ音、「カチ」と1回音がすれば1ノッチです。 ※踏みしろは車種によって異なりますので、35、36ページの「サービスデータ」を参照してください。</p>	●	●
燃料	<p>▶量 燃料計で燃料が十分あるか確認します。</p>		●	
クラッチ・ペダル	<p>▶遊び</p> 	<p>クラッチ・ペダルを手で抵抗を感じるまで押し、遊びの量をものさしなどで点検します。 ※遊びは車種によって異なりますので、35、36ページの「サービスデータ」を参照してください。</p>	●	●
	<p>▶切れたときの床板とのすき間</p>  <p>床板とのすき間 25mm以上</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. エンジンを始動し、アイドル状態でパーキング(駐車)・ブレーキをかけます。 2. クラッチ・ペダルをいっぱい踏み込んでチェンジ・レバーをロー(1速)にいます。 3. クラッチ・ペダルをゆっくり離し、クラッチがつかがる直前の状態(エンジン音が変わったり、振動が発生したりする)でペダル上面と床板(カーペットをめくった状態)とのすき間が規定の範囲にあるか調べます。 	 <p>注意!</p>	 <p>点検するとき、車が急発進しないよう十分注意してください。</p>

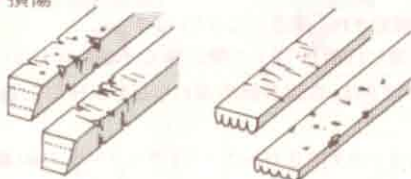
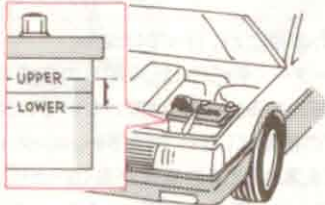
ボンネットを開けて

点検箇所・項目	点検方法		運行前 点検	5か月 点検	
ブレーキ液	▶量		<p>補給タンクのMAX (上限) とMIN (下限) の基準線の間液があるか調べます。</p> <p>★ブレーキ液が不足している場合は、早目にトヨタ販売店で補給してください。</p>	●	●
エンジン・オイル	▶量		<p>1. オイル・レベル・ゲージをきれいにふき、再びもとしてFとLの間にオイルがあるか調べます。</p> <p>★点検は水平な場所で行ってください。車が傾いていると正確な量を示さないことがあります。</p> <p>★点検はエンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも5分くらいたってから行ってください。オイルがエンジン各部に残っていると正確なオイル量が測れません。</p> <p>2. L 以下の場合は、キャップを取りはずし、オイルを補給します。</p> <p>3. 補給後、オイル量がFレベルにあるかオイル・レベル・ゲージで調べます。オイル量が適量であればキャップを確実に取りつめます。</p> <p>★補給時に、補給口からゴミがはいらぬよう十分注意してください。</p> <p>★オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。</p>	●	●
	▶よごれ具合		<p>オイル・レベル・ゲージについているオイルを布などに付着させて、ねばりやよごれ具合を調べます。</p>	●	●

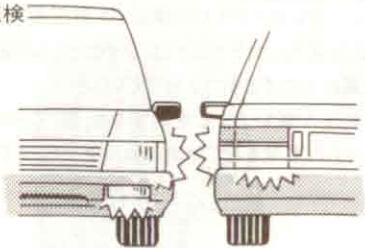


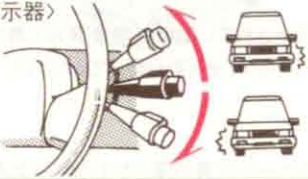
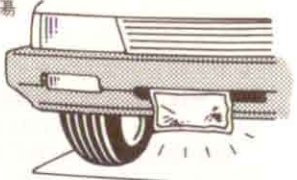


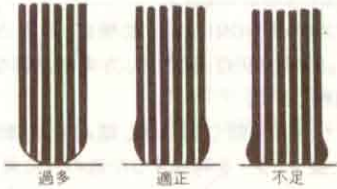


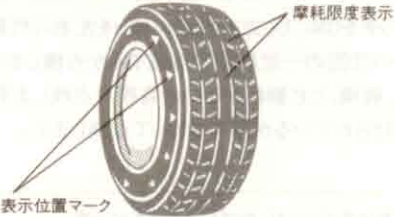

F 以上にオイルを補給するとエンジン不具合の原因になることがあります。

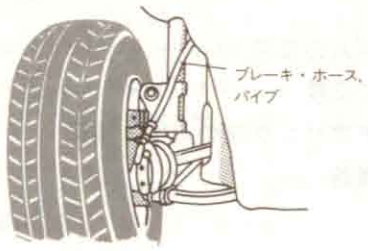
点検箇所・項目	点	検 方 法	運行前 点検	6か月 点検
冷却水	<p>▶量</p>  <p>※冷却水の量は車種によって異なりますので、35,36ページの「サービスデータ」を参照してください。</p>	<p>ラジエーター補助タンク内の冷却水の量が、FULL(上限)とLOW(下限)の間にあるか調べます。</p> <p>★不足している場合は、トヨタ純正ロング・ライフ・クーラントをラジエーター補助タンクに補給します。</p> <p>★冷却水の点検・補給は、冷却水が冷えているときにラジエーター補助タンクで行ってください。ラジエーター内の冷却水が減ると、ラジエーター補助タンクから自動的に補給される構造になっています。</p> <p>★冷却水の量は常にLOWとFULLの間に保ち、FULL以上はいれなくてください。LOW以下のときは、冷却システムの漏れなどを点検してから補給してください。</p> <p>★冷却水の補給はトヨタ純正ロング・ライフ・クーラントの濃度を30%(寒冷地は50%)にしてご使用ください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 注意!</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 交換は、車検ごとに行ってください。 2. ラジエーター・キャップは、冷却水の交換およびオーバーヒート時に補給するとき以外は開けないでください。 3. 水だけの補給はしないでください。ロング・ライフ・クーラントの濃度を薄めると凍結温度が高くなったり、防錆力が低下したりして錆などの不具合原因となることがあります。 </div>	●	●
	<p>▶水漏れ</p> 	<p>ラジエーター、ラジエーター・ホースなどから水漏れがないか点検します。また、車を止めておいた地面に水が漏れたあとがないかも調べます。</p>	●	

点検箇所・項目	点 検 方 法	運行前 点検	6か月 点検
ファン・ベルト、 パワー・ステアリング・ ベルト、 スーパーチャージャー・ ベルト	▶ファン・ベルトの張り具合 ベルト中央部を10kgの力で押して調べてください。 ※ベルトの張り具合は車種によって異なりますので、33、34ページの「サービスデータ」を参照してください。	●	●
	▶パワー・ステアリング・ベルト、スーパーチャージャー・ベルトの張り具合 ベルト中央部を10kgの力で押して調べてください。 ※ベルトの張り具合は車種によって異なりますので、33、34ページの「サービスデータ」を参照してください。	●	●
	▶損傷 ベルトに傷、ヒビ割れ、異状な摩耗がないか調べます。 	● (ファン・ベ ルトのみ)	●
バッテリー液	▶量  バッテリーの液面が上限 (UPPER LEVEL) と下限 (LOWER LEVEL) の間にあるか目視で点検します。メンテナンス・フリー・バッテリーはバッテリー上面に取り付けられた点検口で調べることもできます。 ★液量が少ないときは、UPPER LEVELまで補充液または蒸留水を補給してください。 ★UPPER LEVEL以上補給しないでください。	●	●


車を外から見て

点検箇所・項目	点	検	方	法	運行前 点検	6か月 点検	
灯火装置、 方向指示器	▶点検				<ol style="list-style-type: none"> 1. エンジン・スイッチをONにして、前照灯、非常点滅灯、車幅灯、尾灯、番号灯、後退灯、計器照明灯、室内灯、方向指示器など作動させ、点灯または点滅するか点検します。 2. ブレーキ・ペダルを軽く、繰り返し踏んで、制動灯が点滅するか点検します。確認は、壁やミラーを利用するか他の人に見てもらってください。 3. 各ランプおよび反射器のレンズに、よごれや損傷がないか調べます。 	●	
	▶作動 〈前照灯〉				<ol style="list-style-type: none"> 1. 点灯状態にし、明るさが不足していないか、また照射方向が著しく狂っていないか目視などで点検します。 2. レンズに破損、ヒビ割れがないか目視で点検します。 3. 確実に取り付けられているか手でさわって点検します。 		
	〈他のランプ類〉				<ol style="list-style-type: none"> 1. エンジン・スイッチをONにして、非常点滅灯、制動灯、車幅灯、尾灯、番号灯、後退灯、計器照明灯、室内灯、方向指示器などを作動させ、点灯または点滅するか点検します。 2. 各ランプのレンズに変色、破損、ヒビ割れがないか目視で点検します。 3. 確実に取り付けられているか手でさわって点検します。 		
	〈方向指示器〉				<ol style="list-style-type: none"> 1. エンジン・スイッチをONにし、方向指示レバーを左右に作動させて、方向指示灯が毎分60～120回の一定周期で点滅するか点検します。 2. レンズに変色、破損、ヒビ割れがないか目視で点検します。 3. 確実に取り付けられているか手でさわって点検します。 		
ナンバー・プレート	▶よごれ、損傷				<ol style="list-style-type: none"> 1. プレートが確実に取り付けられているか調べます。 2. プレートに著しいよごれや損傷がなく、番号などがはっきりと確認できるか点検します。 	●	

点検箇所・項目	点検方法	運行前点検	6か月点検
<p>▶ 空気圧 〈目視で〉</p>  <p>過多 適正 不足</p>	<p>タイヤの接地部のたわみ状態を見て空気圧が適当であるか点検します。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p> 注意!</p> <ol style="list-style-type: none"> チューブレス・タイヤの場合、空気圧が極端に少なかったり、リムが変形したときなどは、タイヤとリムの密着が悪くなり空気が漏れるのでとくに注意してください。 空気圧が低いまままで走行すると、急ハンドル時タイヤがリムからはずれ事故を起こすおそれがあり危険です。 </div> <p>〈タイヤ空気圧計を使用して〉 タイヤ空気圧計で空気圧が規定値にあるか点検します。標準空気圧表は運転席ドア後部にはってあります。 ★タイヤ空気圧計のない場合は、ガソリンスタンド等で点検・調圧してください。</p>	●	●
<p>タイヤ</p>	<p>▶ き裂、損傷 ▶ 異状な摩耗、金属片、石、その他の異物</p>  <p>タイヤの接地面全周と両側面に著しいき裂や損傷、極端にすり減っている個所がないか調べます。 また、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないか調べます。</p> <p>▶ 溝の深さ</p>  <p>摩耗限度表示 表示位置マーク</p> <p>— 摩耗限度表示位置マーク —</p> <p>▶ 標準タイプ・タイヤ  ▶ オールシーズン・タイプ・タイヤ</p> <p>〈運行前点検〉 タイヤの接地面に表示されている摩耗限度表示(溝の深さが1.6mmになったら現われます)が現われたらタイヤを取り替えてください。</p> <p>〈6か月点検〉 摩耗限度表示カスケールで溝の深さが1.6mm以上あるか点検します。</p> <p>★オールシーズン・タイプ(175/70SR13)のタイヤは雪路走行摩耗限度表示(新品時溝の深さの1/2になったら現われます)が現われたら、雪路走破性が落ちますので注意してください。</p>	●	●

点検箇所・項目	点検方法	運行前点検	6か月点検
ブレーキ・ホース、パイプ (フロントのみ)	<p>▶ 液漏れ、損傷、取りつけ状態</p>  <p>1. ハンドルを左にいっぱい切った状態で左側フロント・ブレーキのブレーキ・ホースに傷、ヒビ割れ、ふくらみなどがないかを目視または手でさわって点検します。</p> <p>2. ブレーキ・ホースが車体などと接触していないか、ホースの接続部から液漏れがないか点検します。</p> <p>3. 右側フロント・ブレーキのブレーキ・ホースについても左側と同様の点検をします。</p>		●

徐行しながら

点検箇所・項目	点検方法	運行前点検	6か月点検
ブレーキ	<p>▶ きき具合</p>  <p>乾燥した路面で低速走行して、ブレーキ・テストを行い、ブレーキのききが十分であるか、ブレーキが片ぎきしてハンドルがとられないか点検します。</p> <p>注意！ 周囲の交通状況に十分注意して行ってください。</p>		●

■整備のしかた

定期点検などの結果、清掃、交換などの整備が必要となる場合があります。通常行われることが多いものについてその実施方法をこの項目では説明してあります。

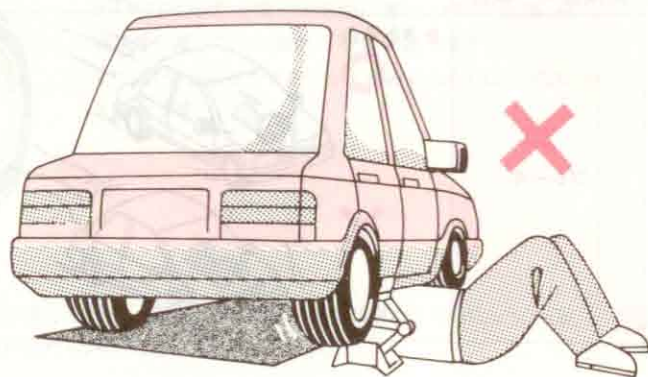
バッテリーの手入れ……………	25	ワイパー・ゴムの交換……………	30
エア・クリーナー・エレメントの清掃、交換……………	26	点火プラグの交換……………	31
冷却水の交換……………	26	パワー・ステアリング液の点検・補給……………	31
ウォッシャー液の補給……………	29	燃料・水分離器……………	32
オートマチック・トランスミッション・フルードの量……………	30		



注意!

整備をするときは下記事項を厳守してください。

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる場所を選び、車を水平な位置に止めてください。
2. 作業に適した工具を使用してください。
3. エンジンを止めた状態で行ってください。
4. パーキング(駐車)・ブレーキを十分かけ、車輪に輪止めをするなどして、車が動かないようにしてください。
5. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
6. 自動車をリフト・アップする場合には適切なジャッキを使用してください。
(車に搭載されているジャッキは、タイヤ交換やタイヤ・チェーンをつけるときのみ使用するものですから車体の下に絶対はいらないでください。)



バッテリーの手入れ

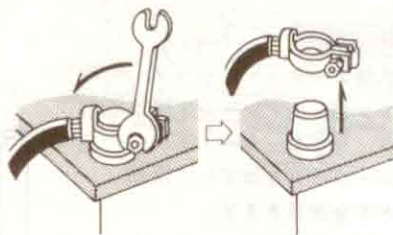
▶ 端子の手入れ



1. 端子のゆるみや腐食は接触不良の原因にもなります。端子部に白い粉がついているときは、ぬるま湯で清掃したあと、グリースを塗ります。
2. 端子部の腐食が著しい場合は、端子をはずし、ワイヤー・ブラシか紙ヤスリでみがいたあと、

端子部にゆるみが生じないように確実に取りつけてグリースを塗ります。

★コード側端子をはずすときは、締めつけナットを十分ゆるめてから端子をまっすぐ引き上げてください。コード側端子を斜めに引き上げるとバッテリー側端子を削ってしまい接触不良の原因となります。

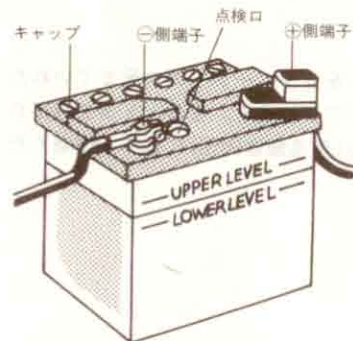


★端子をはずすときは⊖側からはずしてください。また、取りつける場合は⊖側端子を最後に取りつけてください。

▶ バッテリー液の補給

〈メンテナンス・フリー・バッテリー〉

バッテリー液の補給期間を延長した高性能バッテリーです。

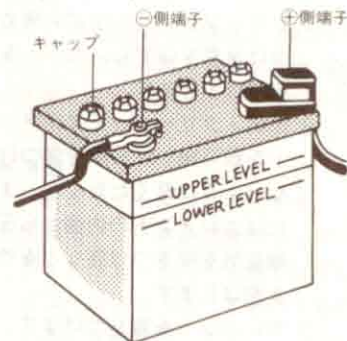


1. バッテリー上面に取りつけられた点検口で、液量の低下と充電状態を点検します。
2. 液量が少ないときは、注液栓をコインではずし、UPPER LEVEL (上限) まで補充液または蒸留水を補給します。

★UPPER LEVEL以上補給しないでください。

3. 補給後、注液栓を確実に締めつけます。

〈標準バッテリー〉



1. 液面がLOWER LEVEL (下限) より下にあるときは、キャップをはずし、UPPER LEVEL (上限) まで補充液または蒸留水を補給します。

★UPPER LEVEL以上補給しないでください。

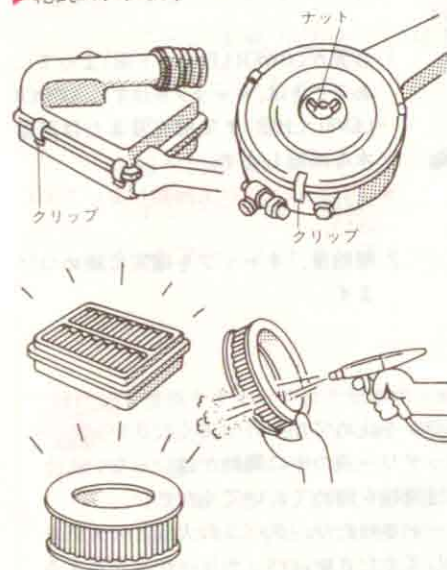
2. 補給後、キャップを確実に締めつけます。



1. 作業は、必ずエンジンを止めてから行ってください。
2. 清掃のときは、バッテリー液の中に異物はいらないようにキャップまたは注液栓を締めておいてください。
3. バッテリーはショートさせたり、タバコの火などの火気を近づけないようにしてください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
4. バッテリー液が目や皮につくと、その部分がおかされますので十分注意してください。目にはいったときは、すぐ多量の水で洗い、医師の治療を受けてください。
5. 充電するときは、すべてのキャップをはずし通気の良いところで行ってください。
6. バッテリー液をこぼした場合には、その付近を十分水洗いしてください。
7. シールドバッテリー (密閉式バッテリー) は、バッテリー液の補給はしないでください。

エア・クリーナー・エレメントの清掃、交換

▶ 乾式エレメント



1. クリップやナットなどの締めつけ金具をはずし、カバーを取りはずします。
2. エア・クリーナー・エレメントを取り出し、ろ紙を傷つけないように軽くたくか、またはエレメントの内側から圧縮空気を吹きつけ塵などを吹き飛ばします。
3. エレメントを取りつけます。
4. カバーを取りつけ、クリップやナットなどの締めつけ金具で確実に締めつけます。

★カバーを取りはずしたとき、ナットをキャブレター内などに落とさないよう注意してください。



取りはずしたカバーやナットをエンジン・ルーム内に置いたままエンジンをかけないでください。ケガをしたり、部品を破損するおそれがあります。

冷却水の交換

- ★交換は水温が低いときに行ってください。
- ★交換時は、エンジン内に空気が残り、しばらくは冷却水の減少が見られますが異状ではありません。



水温が高いとき、ラジエーター・キャップ^{※1}をはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出し、危険です。

※冷却水の量は車種によって異なりますので、35ページの「サービステータ」を参照してください。

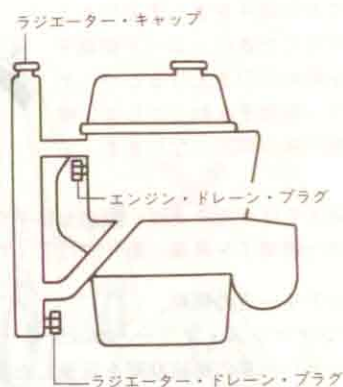
MR2を除く

1. ラジエーター・キャップ、エンジン・ドレーン・プラグ、ラジエーター・ドレーン・プラグをはずし、冷却水を全部抜きます。
2. 水道の水でラジエーター内を洗浄し、エンジン・ドレーン・プラグとラジエーター・ドレーン・プラグを取りつけます。
3. ヒーターの温度調整レバーを「WARM」の位置にします。

4. <V6エンジンを除く>

トヨタ純正ロング・ライフ・クーラントをラジエーターの口元まで入れた後、ラジエーター補助タンクのFULLまでいれます。なお、トヨタ純正ロング・ライフ・クーラントの濃度は30% (寒冷地は50%) にしてご使用ください。

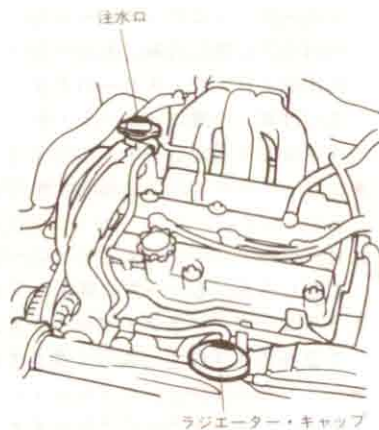
※1 V6エンジンは注水口キャップ。



(V6エンジン)
(ウイングダム、セプター3VZ-FE)
(カムリ4VZ-FE)

- ①冷却水を注入口よりいっぱいになるまでゆっくりいれます。
- ②冷却水をラジエーター補助タンク
のFULLまでいれます。

★ラジエーター・キャップは絶対に
はずさないでください。



5. キャップを確実に取りつけます。

6. エンジンを始動し、しばらくたってからエンジンを止め、ラジエーター・キャップをはずして冷却水の減り具合を確認します。減り具合が著しいときは、ロング・ライフ・クーラントを補給します。

★交換後、1週間以内(または500km走行以内)に1~2度ラジエーター・補助タンクの水位を点検し、不足している場合は補給してください。

MR2

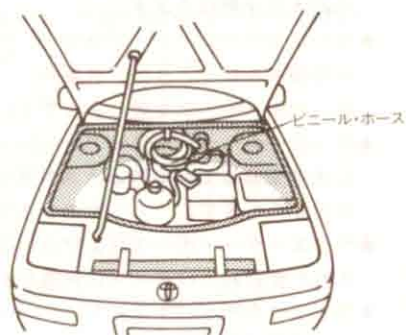
MR2の冷却水の交換は、下記のとおり特殊工具を必要とする複雑な作業ですので、できる限りトヨタ販売店のテクノショップにお申し付けください。

★作業を確実にを行うため、作業手順を遵守してください。

▶準備

1. 応急用タイヤを取り出します。
2. 応急用タイヤ格納部奥のラゲージ・トリム・カバーを取りはずし、ビニール・ホース(2本のうちの1本)を取り出します。
3. ヒーターの温度調整レバーを「WARM」(オート・エア・コンディショナーは「最右端」)の位置にします。
4. ボックス・レンチで車両下側のアンダー・カバーを取りはずします。

ラゲージルーム配置図



★作業を安全、確実にを行うため、車は必ず水平状態にしてください。車が傾いた状態で作業を行うと抜き取り不良および注入時のエア抜け不良の原因となります。

★車をジャッキ・アップした場合は、確実にスタンドで固定してください。

▶ 冷却水の抜き取り方法

1. ウォーター・フィルター・キャップ、エンジン・ドレイン・プラグ、ラジエーター・ドレイン・プラグおよびラジエーター・パイプのドレイン・プラグ(2カ所)をはずして(またはゆるめて)、冷却水を全部抜きます。

★エンジン・ドレイン・プラグから冷却水を抜くときは、付属のビニール・ホースを差し込んでください。

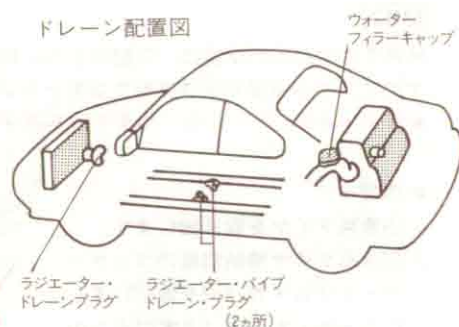
★ラジエーター・パイプのドレイン・プラグおよびガスケットに損傷があるときは交換してください。ガスケットは冷却水交換ごとに交換することをおすすめします。

★ラジエーター・ホースおよびホース・クランプを点検し、クランプの位置ずれや変形およびホースに損傷があるときは交換してください。

★ラジエーター・パイプ・ドレイン・プラグをはずすときは、アンダーカバーを取りはずしてください。

★3S-G系オイルクーラー付き車のエンジン側ドレインは4番シリンダー付近のウォーターホースを抜きます。

2. 水道の水でラジエーター内を洗浄し、エンジン・ドレイン・プラグ、ラジエーター・ドレイン・プラグおよびラジエーター・パイプのドレイン・プラグを取りつけます。(3S-G系のオイルクーラー付き車はウォーターホースを取りつけます。)



▶ 冷却水の注入方法

1. エンジン・ドレイン・プラグに使用したビニール・ホースをラジエーター・エア・ドレイン(A)のパイプに差し込み、もう一方の端をトランク・ステーのできるだけ高い位置にビニール・テープなどで固定します。

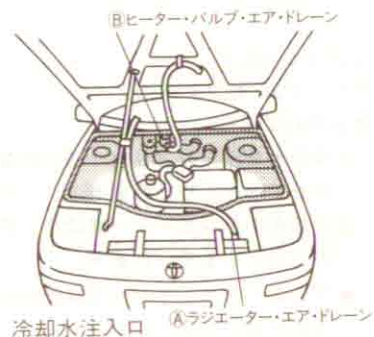
★ビニールホースのつぶれに注意してください。

2. ヒーター・バルブ・エア・ドレイン(B)部のもう1本のホースを(B)のパイプに差し込み、もう一方の端をトランクの内側に固定します。
3. ラジエーター・エア・ドレイン(A)およびヒーター・バルブ・エア・ドレイン(B)を約3回転左に回して開きます。

★バルブ(B)の開閉は、ワイヤー・ハーネス・クランプからハーネスを1カ所はずし、上方へずらして行います。

4. トヨタ純正ロング・ライフ・クーラントをウォーター・フィルターの注入口からいれます。
5. (A)と(B)のホースから空気が抜けているのを確認し、ウォーター・フィルターの口元まで注入します。

★(A)と(B)のホースの水位がウォーター・フィルターの口元の高さと同じくらいになっていることを確認し、ホースの水位が低いときはホースのつぶれや折れがないことを確かめ、再度注入作業をしてください。



6. 2～3分放置してホースの水位に変化がないことを確かめてから、①と②のバルブを締めます。

★エンジン・ドレーン・プラグ、ラジエーター・ドレーン・プラグおよびラジエーター・パイプのドレーン・プラグから水漏れがないことを確認してください。

7. ①②のバルブが確実に締まっていることを確認してから、ウォーター・フィルター・キャップを一段目のロック位置まで締めます。

8. ①と②のホースに残っている冷却水を回収します。

★回収時、冷却水がトランクにこぼれないよう布などをしいてください。

9. エンジンを始動し、2～3分後にエンジンを止め、ウォーター・フィルター・キャップをはずして冷却水注入口の口元までロング・ライフ・クーラントを補給します。

10. ウォーター・フィルター・キャップを一段目のロック位置まで締めて、9の作業をもう一度繰り返します。

11. ウォーター・フィルター・キャップを確実に締めます。

12. ロング・ライフ・クーラントをラジエーター補助タンクのFULLまでいれます。

▶交換が終わったら

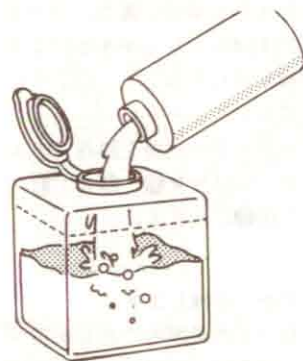
1. アンダー・カバーを取りつけます。

2. ワイヤ・ハーネスをクランプにかけて、ビニール・ホースをもとどおりに格納し、ラゲージ・トリム・カバーを取りつけます。

3. 応急用タイヤを格納します。

★交換後、1週間以内（または500km走行以内）に1～2度ウォーター・フィルター・キャップとラジエーター補助タンク内の水位を点検し、不足している場合は必ず補給してください。

ウォッシャー液の補給



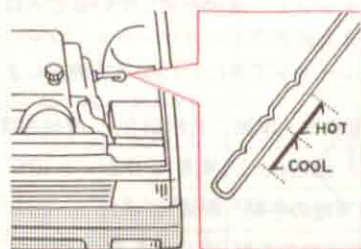
ウォッシャー液が不足しているときは、トヨタ純正ウインドウ・ウォッシャー・フルードを下表にしたがって補給します。

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水2	-10°C
寒冷地の冬期	原液1に水1	-20°C
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50°C以下



ウォッシャー液のかわりに石けん水などをいれると塗装のしみなどの原因となることがあります。

オートマチック・トランスミッション・フルードの量



1. 車を水平な場所に置き、パーキング(駐車)・ブレーキをかけます。
★点検が終わるまでエンジンをかけておいてください。
2. フット・ブレーキを踏み、チェンジ・レバーをP→Lまで動かした後Pにします。

3. レベル・ゲージをきれいにふき、再びもどしてから点検します。
4. フルードが冷えているとき(約25℃)は、COOLの範囲内にあるか調べます。フルードが暖まっているとき(約75℃、10分以上走行後の温度に相当)は、HOTの範囲内にあるか調べます。



5. フルードが不足したまま走行すると油圧が下がり走行不能になるおそれがあります。トヨタ純正キャッスル・オート・フルード・DII®をレベル・ゲージそう入孔より規定量まで補給します。

※4WD車はフルードが異なりますので巻末の「オイル交換、給油について」をご覧ください。



注意!

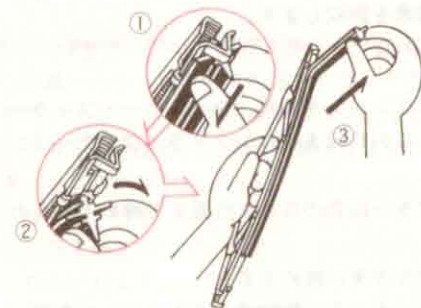
1. 補給は、必ず規定量にしてください。いれすぎると液漏れになります。
2. 点検および補給後は、レベル・ゲージを確実に差し込んでください。

ワイパー・ゴムの交換



ワイパーのふきが悪くなったらゴムを点検し、交換してください。

▶交換方法



- ①ゴムの先端を押します。
- ②切り欠き孔から
- ③引き出します。

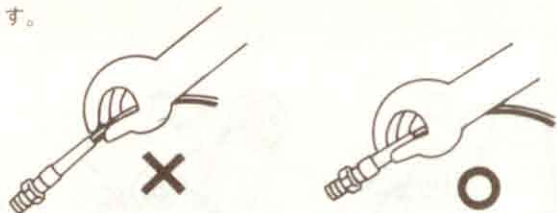
- ★ゴムを取りはずしたとき、ワイパー・アームを倒さないでください。ガラスに傷がつくことがあります。
- ★フル・コンシールド・ワイパー(ボンネット収納型ワイパー)の場合は、ワイパーを作動させ、アームが上方を向いたときエンジン・スイッチを切り、作動を停止させてからゴムを交換してください。なお、アームを起こした状態でワイパーを作動させるとボンネットを損傷することがあります。

点火プラグの交換

ガソリン車

★白金プラグの点検・調整は不要です。また、一般のプラグは定期点検の結果にもとづき交換します。

1. プラグ・コードのキャップ部を持ってコードを取りはずします。



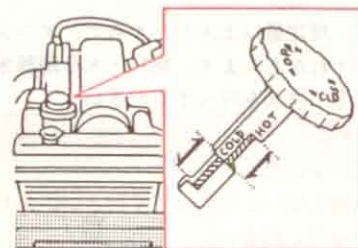
★コードの中間を持って引っ張ると、芯線が断線するおそれがあります。

2. 指定のプラグと交換します。

3. プラグにコードを確実に取り付けます。

※点火プラグは車種によって異なりますので、35ページの「サービステータ」を参照してください。

パワー・ステアリング液の点検・補給

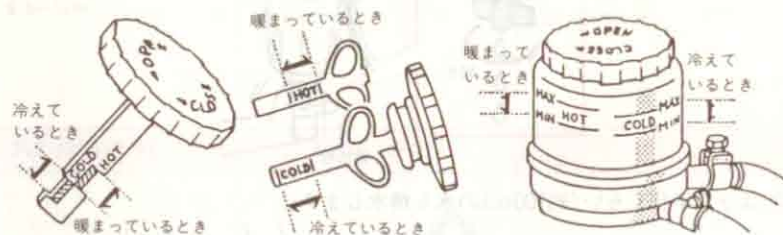


液量を5,000 km走行ごとに補給タンクのゲージで、下記の順序にしたがって調べます。

1. 車を水平な場所に置き、パーキング(駐車)・ブレーキをかけます。
2. キャップを左に回してはずし、ゲージ部分を布などできれいにふき、再びもとしてから点検します。

★走行直後は、液が高温になっているため、手などが触れるとやけどをするおそれがあります。

3. 液が冷えているときはC O L D側の斜線部の範囲内に、暖まっているときはH O T側の斜線部の範囲内にあるか調べます。



参考

C O L D：約20℃。エンジン停止後、しばらく放置したときの液温がこれに相当します。

H O T：約70℃。高速走行後の液温がこれに相当します。

4. 液不足のまま走行すると、異音が発生したりするなど不具合の原因になるおそれがあります。不足している場合は、トヨタ純正キャッスル・パワー・ステアリング・フルード (MR2はトヨタ・パワーステアリングフルードEH)を規定量まで補給してください。

★補給は、必ず規定量にしてください。いれすぎると液漏れになります。

★点検および補給後は、キャップを確実に締め、こぼれた液は必ずふき取ってください。

燃料・水分離器

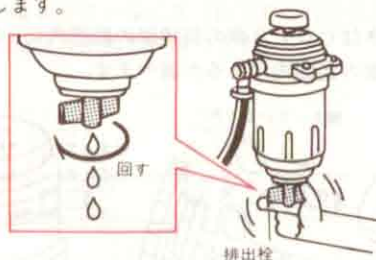
ディーゼル車

燃料中に含まれる水を分離する装置です。規定量以上水がたまると、エンジンに水がはいり、エンジンを損傷するおそれがあります。燃料・水分離器水位警告灯が点灯したら、ただちに次の順序で排水を行ってください。

- ★エンジンを停止してから行ってください。
- ★排出栓を締めつけるとき、工具は使用しないでください。
- ★排出栓の下に受け皿を置き、軽油が飛散しないようにしてください。また、周囲に付着した軽油はきれいにふき取ってください。

▶排水方法

1. 排出栓を左に回します。



2. コップ半分くらい(約100cc)の水を排水します。



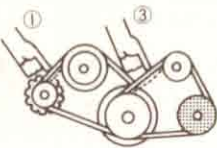
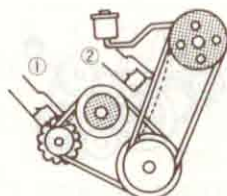
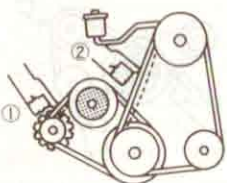
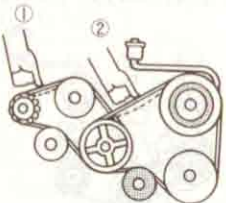
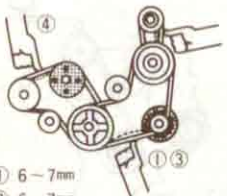
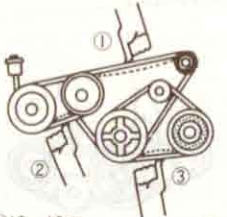
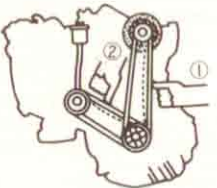
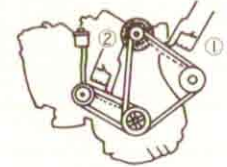
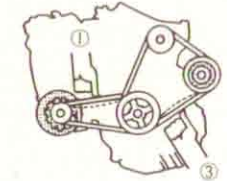
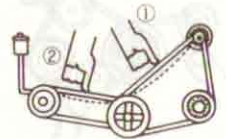
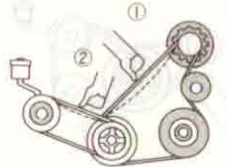

3. 排水処理が完了したら、排出栓を確実に締めつけます。

■ サービスデータ(整備基準値)

ファン・ベルト、パワー・ステアリング・ベルトについて

図の①はファン・ベルト、②はパワー・ステアリング・ベルトを示します。

参考としてエアコン・ベルトを③、スーパーチャージャー・ベルトを④で示します。

E系		4A-GE(AE系)	4A-GZE	4A-F, 5A-F系	
<p>〈エアコン付き〉</p>  <p>① 5-6.5mm ③ 8-10mm</p>	<p>〈パワー・ステアリング付き〉</p>  <p>① 5-6.5mm ② 9-11mm</p>	<p>〈エアコン+パワー・ステアリング付き〉</p>  <p>① 5-6.5mm ② 12-15mm</p>	 <p>① 6-7mm ② 9.5-11mm</p>	 <p>① 6-7mm ③ 6-7mm ④ 6-7mm</p>	 <p>① 10-12mm ② 6-8mm ③ 8.5-9.5mm</p>
3S, 4S, 5S系(MR2を除く)		3S系(MR2)	3VZ-FE, 4VZ-FE	3S-GE, 3S-GTE	
 <p>① 13-17mm ② 10-13mm</p>	<p>〈エアコン付き〉</p>  <p>① 9-11mm ② 10-13mm</p>	 <p>① 12-18mm ③ 8-10mm</p>	 <p>① 11-13.5mm ② 10-12mm</p>	 <p>① 12-18mm ② 10-13mm</p>	

その他の整備基準値

車種	ウイングム	セプター		カムリ、ピスタ				コロナ、コロナSF			コロナEXiV		
	エンジン型式	3VZ-FE	5S-FE	3VZ-FE	4S-FE	3S-FE	4VZ-FE*	2C-T	4A-FE	2C	4S-FE	3S-FE	3S-GE
ブレーキ・ペダルの踏み残りしろ(mm)	80以上	80以上		95以上(ABS付き車100以上)				85(80**)			[80(ABS付75)]		
クラッチ・ペダルの遊び(mm)				5~15				5~15					
パーキング(駐車)・ ブレーキの 引きしろ(踏みしろ)	引きしろ(ノッチ)	5~8		4~7				4~7					
	踏みしろ(ノッチ)	3~6	3~6		3~6								
エンジン・オイル の量 (ℓ)	オイルのみ交換	4.1	3.4	4.1	3.7	3.7	3.7	4.4	2.8	4.2	3.7		3.6
	(ℓ) オイルとフィルター交換	4.3	3.6	4.3	4.1	4.1	3.9	4.9	3.0	4.7	4.1		3.9
冷却水の量 (ℓ)	9.0	7.8	8.5	6.4(M/T) 6.7(A/T)		8.9(A/T)	7.0	5.4(M/T) 5.3(A/T)	7.4	6.9(6.8)(M/T) 6.5(6.7)(A/T)	6.6(6.2)(M/T) 7.0(6.6)(A/T)	6.0(M/T) [6.5(A/T)]	
点火プラグの型式	PQ20R BCPR6EP11	PK20RH BKR6EP11	PQ20RH BCPR6EP11	K16R-U11 BKR5EYA11	K20R-U11 BKR6EYA11	PQ20R BCPR6EP11		K16R-U11 BKR5EYA11		K20R-U11 BKR6EYA11 [K16R-U11 BKR5EYA11]	K20R-U11 BKR6EYA11 [Q16R-U11 BCPR5EY11]	[PK20R8 BKR6EP8]	

※1 カムリのみ ※2 ST195のABSなし車、CT190 ()内はコロナEXiV

車種	カーリーナ					カーリーナED			カルディナ			セリカ			
	エンジン型式	5A-FE	4A-FE	4S-FE	3S-FE	2C	3S-FE	3S-GE	4S-FE	4S-FE	3S-FE	2C	3S-FE	3S-GE	3S-GTE
ブレーキ・ペダルの踏み残りしろ(mm)	85(80***)以上					80以上(ABS付き車は75以上)			85以上			80以上(ABS付き車は75以上)			
クラッチ・ペダルの遊び(mm)	5~15					5~15			5~15			5~15			
パーキング(駐車)・ ブレーキの引きしろ(ノッチ)	4~7					4~7			4~7			4~7			
エンジン・オイル の量 (ℓ)	オイルのみ交換	2.8		3.7		4.2	3.7	3.6	3.7	3.7	3.7	4.2	3.7	3.6	3.6
	(ℓ) オイルとフィルター交換	3.0		3.9		4.7	4.1	3.9	4.1	3.9	3.9	4.7	4.1	3.9	3.9
冷却水の量 (ℓ)	5.4(M/T) 5.3(A/T)		6.9(M/T) 6.5(A/T)	6.6(M/T) 7.0(A/T)	7.1	6.2(M/T) 6.6(A/T)	6.0(M/T) 6.5(A/T)	6.8(M/T) 6.7(A/T)	6.9(M/T) 6.5(A/T)	6.6(M/T) 7.0(A/T)	7.4	6.2(M/T) 6.6(A/T)	6.0(M/T) 6.5(A/T)	6.0	
点火プラグの型式	K16R-U11 BKR5EYA11	PK20R13 BKR6EP13	K20R-U11 BKR6EYA11			Q16R-U11 BCPR5EY11	PK20R8 BKR6EP8	K16R-U11 BKR5EYA11	K20R-U11 BKR6EYA11	K20R-U11 BKR6EYA11		K20R-U11 BKR6EYA11	PK20R8 BKR6EP8		

(注)M/T:マニュアル・トランスミッション A/T:オートマチック・トランスミッション ※1 ST195およびCT195のABSなし車

車 種	カローラ、スプリンター(ワゴン)			カローラ、スプリンター(除ワゴン)						ターセル、コルサ、カローラII			
	3E	5A-FE	2C	5A-FE	4E-FE	4A-GE	4A-GZE	4A-FE	2C	4E-FE	5E-FE	5E-FHE	1N-T
ブレーキ・ペダルの踏み残りしろ(mm)	70以上			70以上(後輪ディスクブレーキ付き車は75以上)						55以上(65以上)*		50以上 (60以上)*	
クラッチ・ペダルの遊び(mm)	5~15			5~15						5~15			
パーキング(駐車) ブレーキの引きしろ(ノッチ)	4~7			4~7 (後輪ディスクブレーキ付き車は5~8)						4~7			
エンジン・オイル の量 (ℓ)	オイルのみ交換	2.5	2.8	4.2	2.8	2.5	2.8	3.0	2.8	4.2	2.5		3.1
	オイルとフィルター交換	2.7	3.0	4.7	3.0	2.7	3.0	3.3	3.0	4.7	2.7		3.6
冷却水の量 (ℓ)	4.8(M/T) 4.9(A/T)	5.3	7.3	5.3	4.8(M/T) 4.7(A/T)	6.0	6.0	5.3※1	7.0(M/T) 6.9(A/T)	4.9(4WD及びA/Tを除く) 5.4(4WD及びA/T)		5.0	
点火プラグの型式	W16EXR-U11 BPR5EY11	K16R-U11 BKR6EYA11	/	K16R-U11 BKR5EYA11	K16R-U11 BKR5EYA11	PK20R11 BKR6EP11	PQ20R-P8 BCPR6EP-N8	K16R-U11 BKR5EYA11	/	K20R-U11 BKR6EYA11		/	

※()内はABS付き車 ※1 4WDのA/T車6.0ℓ

車 種	スプリンター-カブ	MR 2		スターレット			セラ	サイノス	
	4A-FHE	3S-GE	3S-GTE	4E-FE	4E-FTE	1N	5E-FHE	5E-FE	5E-FHE
ブレーキ・ペダルの踏み残りしろ(mm)	55以上	113	111	40以上	45以上	40以上	40(45)以上	50以上	
クラッチ・ペダルの遊び(mm)	5~15	5~15		5~15			5~15	5~15	
パーキング(駐車)・ ブレーキの引きしろ(ノッチ)	4~7	5~8		4~7	5~7	4~7	4~7 (5~7)*	4~7 (6~9)*	
エンジン・オイル の量 (ℓ)	オイルのみ交換	2.7	3.6	2.5			3.1	2.5	2.5
	オイルとフィルター交換	2.9	3.9	2.7			3.6	2.7	2.7
冷却水の量 (ℓ)	5.6(M/T) 6.1(A/T)	13.6		4.4(M/T) 4.7(A/T)	4.8(M/T) 5.0(A/T)	5.3(M/T) 5.2(A/T)	5.0	5.4	
点火プラグの型式	Q16R-U BCPR5EY	PK20R8 BKR6EP8	/	K16R-U11 BKR5EYA11	PK20R11 BKR6EP11	/	K20R-U11 BKR6EYA11	K16R-U11 BKR5EYA11	K20R-U11 BKR6EYA11

※()内は後輪ディスク・ブレーキ車

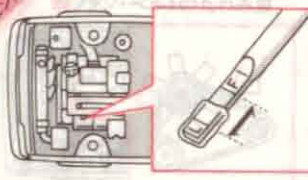
(注)M/T:マニュアル・トランスミッション A/T:オートマチック・トランスミッション

1か月無料点検結果

トヨタの整備基準にもとづいて、1か月点検調整を次のとおり行いました。

登録番号 X53モ0324	車種 AE101	点検時の走行距離 543 km
------------------	-------------	--------------------

1 エンジン・オイルの量



基準値	測定値	調整後

■冷却水の量

基準値	測定値	調整後

■エンジン・オイルのよごれ

・異状なし ()

■エンジン・オイルの漏れ

・異状なし ()

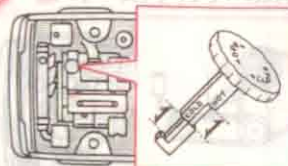
■燃料漏れ

・異状なし ()

■低速及び加速の状態

・異状なし ()

2 パワー・ステアリングの油量



基準値	測定値	調整後

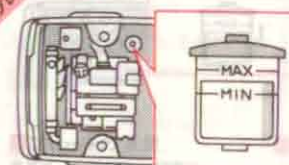
■パワー・ステアリングの油漏れ

・異状なし ()

■ギヤ・ボックスの油漏れ

・異状なし ()

3 ブレーキの液量



基準値	測定値	調整後

■ブレーキ・ペダルの遊び

・異状なし ()

■ブレーキ・ペダルの踏み残りしろ

・異状なし ()

■パーキング(駐車)・ブレーキの引きしろ(踏みしろ)

測定値 調整後

■ホース、パイプの漏れ、損傷、取付状態

・異状なし ()

4 その他

■クラッチの液量

・異状なし ()

■トランスミッションの油漏れ

・異状なし ()

■デフレンシャルの油漏れ

・異状なし ()

■タイヤの溝の深さ

・異状なし ()

■油圧式車高調整装置の油切れ

・異状なし ()

■お客様のご用命事項など

※エンジン・オイルは、次回の6か月点検でのお取り替えをおすすめいたします。量・質に異状がないかぎり、それまでは交換、補充の必要はございません。

※はセリカアクティブサスペンション車のみ。

電話0722(33)35611(夜) 616

点検日 5年8月21日

〒167-5446 東京都北三國区五反田6-4-16

トヨタ自動車株式会社

次回6か月無料点検は _____ 年 _____ 月 _____ 日

感圧複写紙につき下じきをご使用ください。

トヨタの整備基準にもとづいて、6か月点検調整を次のとおり行いました。

6か月無料点検結果

登録番号 X53E 0324	車種 AE101	点検時の走行距離 3504 km
-------------------	-------------	---------------------

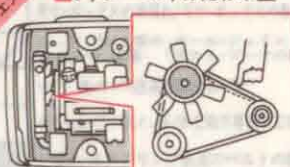
1 エンジン

■ファン・ベルトのたわみ量

基準値

測定値

調整後



■エンジン・オイルの量

基準値	測定値	調整後

■冷却水の量

基準値	測定値	調整後

■エンジン・オイルのよごれ

・交換

・異状なし 【 6か月後の交換をおすすめします】

■ファン・ベルトの損傷

・異状なし

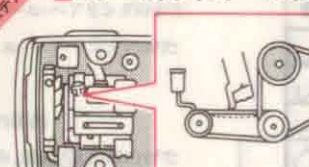
2 ステアリング

■パワー・ステアリング・ベルトの緩み

基準値

測定値

調整後



■パワー・ステアリング・ベルトの損傷

・異状なし

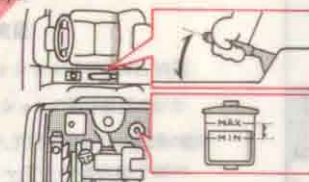
3 ブレーキ

■パーキング(駐車)・ブレーキの引きしろ(踏みしろ)

基準値

測定値

調整後



■ブレーキの液量

基準値	測定値	調整後

■ブレーキのきき具合

・異状なし

■ブレーキ・ペダルの遊び

・異状なし

■ブレーキ・ペダルの踏み残り

・異状なし

■ホース、パイプの漏れ、損傷、取付状態

・異状なし

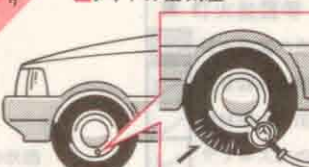
4 タイヤ

■タイヤの空気圧

基準値

測定値

調整後



■タイヤのき裂、損傷

・異状なし

■タイヤの金属片、石その他の異物

・異状なし

■タイヤの溝の深さ

・基準値

・測定値

5 その他

■クラッチ・ペダルの遊び、切れたときの床とのすき間

・異状なし (AIT)

■方向指示器の作用

・異状なし

■灯火装置の作用

・異状なし

■バッテリーの液量

・異状なし

6

■お客様のご用命事項など

感圧複写紙につき下じきをご使用ください。

点検日 6年1月22日	支店 堺市北三国ヶ丘町5丁目5番地 電話0722(33)3561代表 86157	次回の12か月定期点検は	年 月 日
----------------	--	--------------	-------

定期点検整備記録簿

自家用乗用等	点検	✓	交換	×	清掃	T
	分解	○	修理	△	清掃	C
			調整	A	給油	L

6 (■)
12 (■+□)
24 (■+□+□)

1) か月定期点検整備

松田 日 1 月 3 日

車名及び型式	自動車登録番号又は車両番号
原動機の型式	初年度登録年又は初年度番号

点検の結果及び整備の概要

■ かじ取り装置

- ハンドルの遊び、緩み、がた/ハンドルの操作具合
- ギヤ・ボックスの油漏れ/ギヤ・ボックスの取付けの緩み
- ロッド、アーム類の/ボール・ジョイントの緩み、がた、損傷
- ナックルの連結部のがた
- ホイール・アライメント/かじ取り車輪の左右の回転角度
- パワー・ステアリング装置のベルトの緩み、損傷
- パワー・ステアリング装置の油漏れ、油量
- パワー・ステアリング装置の取付けの緩み

■ 制動装置

- ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間
- 駐車ブレーキ・レバーの引きしろ
- 駐車ブレーキのきき具合
- ロッド、ケーブル類の緩み、がた、損傷
- ホース、パイプの漏れ、損傷、取付状態
- リザーバ・タンクの液量
- ホイール・シリンダ、ディスク・キャリパの液漏れ
- マスタ・シリンダ、ホイール・シリンダ、ディスク・キャリパの機能、摩耗、損傷
- 倍力装置の機能
- ドラムとライニング/シューの摺動部分、シムとのすき間/ライニングの摩耗
- ドラムの摩耗、損傷
- ディスクとパッドとのすき間/パッドの摩耗
- ディスクの摩耗、損傷

■ 走行装置

- タイヤの空気圧/タイヤの亀裂、損傷

- タイヤの溝の深さ、/タイヤの金属片、異状な摩耗
- ホイール・ナット、ホイール・ボルトの緩み
- リム、ホイール・ディスクの損傷
- フロント・ホイール・ベアリングのがた
- リヤ・ホイール・ベアリングのがた

■ 緩衝装置

- ショックばねの損傷
- 取付部の緩み、損傷/連結部のがた
- サスペンション・アームの連結部のがた、アームの損傷
- ショック・アブソーバ/ショック・アブソーバの油漏れ、損傷

■ 動力伝達装置

- クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間
- クラッチの作用
- クラッチの液量
- トランスミッションの油漏れ、油量
- トランスミッションの操作機構のがた
- プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフトの連結部の緩み
- ドライブ・シャフトの自在継手部のグリス・ブーツの亀裂、損傷
- プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフトの自在継手部のグリス・ブーツの亀裂、損傷
- プロペラ・シャフトのセンターベアリングのがた
- デファレンシャルの油漏れ、油量

■ 電気装置

- 火花プラグの状態
- 火花点時期
- 断続器の状態/ディストリビュータのキャップの状態
- 進角装置(進角機構を含む。)の機能

- バッテリの液量
- バッテリの液の比重/バッテリーのターミナル部の接続状態
- 電気配線の接続部の緩み、損傷

■ 原動機

- 原動機のかかり具合、異音
- 低速及び加速の状態
- 空排気の状態
- エア・クリーナ・エレメントの状態
- 弁すき間
- エンジン・オイルの汚れ、量
- エンジン・オイルの漏れ
- 燃料漏れ
- キャブレターの/スロットル・バルブ、リンク機構の状態/チョーク・バルブの状態
- 噴射ノズルの噴射圧力、噴霧状態
- 噴射時期、噴射量
- 冷却水の量
- ファンベルトの緩み、損傷
- 冷却装置の水漏れ
- ラジエータ・キャップの機能

■ ばい煙、悪臭のあるガス、有害なガス等の発散防止装置

- ブローバイ・ガス還元装置のメ/ブローバイ・ガス還元装置の配管の損傷
- 燃料蒸発ガス排出抑制/チャコール・キャニスターの詰まり、損傷
- 燃料蒸発ガス排出抑制装置のチェック・バルブの機能
- 触媒反応方式等排気ガス減少装置の取付けの緩み、損傷
- 二次空気供給装置の機能
- 排気ガス再循環装置の機能

- 減速時排気ガス減少装置の機能
- 一般化炭素等発散防止装置の配管の損傷、取付状態
- 燃害防止装置の過熱板の取付けの緩み、損傷

■ 灯火装置等

- 灯火装置の作用/方向指示器の作用
- 警告器の作用
- 窓拭器の作用/洗浄液噴射装置の作用
- デフロスタの作用/施設装置の作用
- 計器の作用
- エグゾースト・パイプ、マフラの取付けの緩み、損傷
- マフラの機能
- ドア・ロックの機能/車枠、車体の緩み、損傷
- 座席ベルトの状態
- シャン各部の給油脂状態

■ 高圧ガスを燃料とする燃料装置等

- 導管、継手部のガス漏れ、損傷
- ベーパーライザのタール
- ガス容器取付部/座席のある車室との緩み、損傷
- 間の気密

■ その他の点検項目

記事(主な交換部品、測定結果等)

測定結果	測定結果
●CO、HC濃度(アイドリング時)	
CO	%
HC	ppm

点検又は整備を実施した者の氏名又は名称
トヨタオート南浜機 堺支店
 住所 堺市北三国ヶ丘町6丁5番4号
 電話0722(33)3561代表 6167

検査を執行した者の氏名	石井 尚志
点検の年月日	6年7月2日
整備を完了した年月日	6年7月2日
点検時の総走行距離	6329 km

御車は貨物の運送の用に供する軽自動車に限り6か月ごとに点検を行わなければならない項目を示す。

□は様式に定められていない項目を示す。

自家用乗用等	点検	✓	交換	×	締付	T
	修理	△	清掃	C		
分解	調整	A	給油	L		

定期点検整備記録簿

6 ()
 12 (+)
 24 (+ +)
 12 か月定期点検整備

松田 ルミ

車名及び型式	Y37 AE101	自動車登録番号又は車両番号	和泉53E 03-4
原動機の型式	4A	初年度登録年又は初年度番号	576
		車台番号	5763616

点検の結果及び整備の概要

■ かじ取り装置

- ハンドルの遊び、緩み、がた/ハンドルの操作具合
- ギヤ・ボックスの油漏れ/ギヤ・ボックスの取付けの緩み
- ロッド、アーム類の/ボール・ジョイントの緩み、がた、損傷/ダスト・ブーツの亀裂、損傷
- ナックルの連結部のがた
- ホイール・アライメント/かじ取り車輪の左右の回転角度
- パワー・ステアリング装置のベルトの緩み、損傷
- パワー・ステアリング装置の油漏れ、油量
- パワー・ステアリング装置の取付けの緩み

■ 制動装置

- ブレーキ・ペダルの遊び、踏み込み/ブレーキのきき具合
- 駐車ブレーキ・レバーの引きしろ
- 駐車ブレーキのきき具合
- ロッド、ケーブル類の緩み、がた、損傷
- ホース、パイプの漏れ、損傷、取付状態
- リザーバ・タンクの液量
- ホイール・シリンダ、ディスク・キャリパの液漏れ
- マスタ・シリンダ、ホイール・シリンダ/ディスク・キャリパの機能、摩耗、損傷
- 倍力装置の機能
- ドラムとライニ/シューの摺動部分、シリンダとのすき間/ライニングの摩耗
- ドラムの摩耗、損傷
- ディスクとパッドとのすき間/パッドの摩耗
- ディスクの摩耗、損傷

■ 走行装置

- タイヤの空気圧/タイヤの亀裂、損傷

- タイヤの溝の深さ、/タイヤの金属片、異状な摩耗
- ホイール・ナット、ホイール・ボルトの緩み
- リム、ホイール・ディスクの損傷
- フロント・ホイール・ベアリングのがた
- リヤ・ホイール・ベアリングのがた

■ 緩衝装置

- シヤシばねの損傷
- 取付部の緩み、損傷/連結部のがた
- サスペンション・アームの連結部のがた、アームの損傷
- ショック・アブソーバ/ショック・アブソーバの油漏れ、損傷

■ 動力伝達装置

- クラッチ・ペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間
- クラッチの作用
- クラッチの液量
- トランスミッションの油漏れ、油量
- トランスミッションの操作機構のがた
- プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフトの連結部の緩み
- ドライブ・シャフトの自在継手部のダスト・ブーツの亀裂、損傷
- プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフトのドライブ・シャフトの自在継手部のがた
- プロペラ・シャフトのセンター・ベアリングのがた
- デファレンシャルの油漏れ、油量

■ 電気装置

- ※点火プラグの状態
- ※点火時期
- 断続器の状態/ディストリビュータのキャップの状態
- 進角装置(遅角機構を含む。)の機能

- バッテリの液量
- バッテリの液の比重/バッテリーのターミナル部の接続状態
- 電気配線の接続部の緩み、損傷

■ 原動機

- 原動機のかかり具合、異音
- ※低速及び加速の状態
- ※排気の状態
- エア・クリーナ・エレメントの状態
- 弁すき間
- エンジン・オイルの汚れ、量
- エンジン・オイルの漏れ
- 燃料漏れ
- キャブレタの/スロットル・バルブ、リンク機構の状態/チョーク・バルブの状態
- 噴射ノズルの噴射圧力、噴霧状態
- 噴射時期、噴射量
- 冷却水の量
- ファンベルトの緩み、損傷
- 冷却装置の水漏れ
- ラジエータ・キャップの機能

■ ばい煙、悪臭のあるガス、有害なガス等の発散防止装置

- プロバイ・ガス還元装置のメ/プロバイ・ガス還元装置の配管の損傷
- 燃料蒸発ガス排出抑制/チャコール・キャニスタの詰まり、損傷
- 燃料蒸発ガス排出抑制装置のチェック・バルブの機能
- 触媒反応方式等排出ガス減少装置の取付けの緩み、損傷
- 二次空気供給装置の機能
- 排気ガス再循環装置の機能

- 減速時排気ガス減少装置の機能
- 一般化炭素等発散防止装置の配管の損傷、取付状態
- 熱害防止装置の遮熱板の取付けの緩み、損傷

■ 灯火装置等

- 灯火装置の作用/方向指示器の作用
- 警音器の作用
- 窓拭器の作用/洗浄液噴射装置の作用
- デフロスタの作用/施錠装置の作用
- 計器の作用
- エグゾースト・パイプ、マフラの取付けの緩み、損傷
- マフラの機能
- ドア・ロックの機能/車枠、車体の緩み、損傷
- 座席ベルトの状態
- シヤシ各部の給油脂状態

■ 高圧ガスを燃料とする燃料装置等

- 導管、継手部のガス漏れ、損傷
- ベーバイザのタール
- ガス容器取付部/座席のある車室との間の気密

■ その他の点検項目

記事(主な交換部品、測定結果等)

測定結果	
●CO、HC濃度(アイドリング時)	
CO	%
HC	ppm

点検又は整備を実施した者の氏名又は名称
 堺市北三国分町6丁目5番4号
 住 新三町カー・南海株塚 支店
 電話0722(33)3561代表 86167

検査を執行した者の氏名	
点検の年月日	7年6月9日
整備を完了した年月日	7年6月9日
点検時の総走行距離	14585 km

※は貨物の運送の用に供する軽自動車に限り6か月ごとに点検を行わなければならない項目を示す。

□は様式に定められていない項目を示す。

オイル交換、給油について

適性オイル、不凍液について

使用するオイルの品質により、車の寿命は著しく左右されます。おクルマに、最も適したトヨタ純正品を正しくご使用ください。

■ キャッスル・エンジン・オイル一覧表

商 品 名		SEA区分	API基準
ガソリン	モーター・オイル	クリーンシンサート	5W-50 SG
		クリーンSG	10W-30 SG
		クリーンエクセレント	10W-40 SF
		クリーンロイヤルII	7.5W-30 SE
		クリーンターボ	10W-30 SF
ディーゼル	ディーゼル・オイル・ニュー・スペシャルII	10W-30 (5W-30)	CD

★新車時、ガソリン車はクリーンSGが、ディーゼル車にはニュースペシャルIIが注入されています。

★ディーゼル・エンジンは極寒時には、ディーゼルオイルニュースペシャルIIの5W-30をおすすめします。

■ エンジン・オイルの交換時期

エンジン・オイルの交換時期は、オイルの品質とおクルマの使用条件によって異なります。次の表を参考にして正しい時期に交換してください。

オイル品質API基準	交 換 時 期 (いずれか早い方)
SE、SF、SG相当品	15,000kmまたは12か月ごと (ただし、ターボ車は5,000kmまたは6か月ごと)
CC、CD相当品	5,000kmまたは6か月ごと

API基準はアメリカ石油協会で定めている品質の級別分類で、オイル缶に表示してあります。

★次のような使用条件では、オイルの劣化が早まりますので5,000kmごとに交換してください。

- 未舗装路でのひんぱん走行
- けん引車としての使用
- 短距離走行の繰り返し
- 寒冷地での使用
- アイドル状態のひんぱん使用

★SD級オイル使用時は、10,000kmまたは6か月ごとに交換が必要です。

■ キャッスル製品一覧表(エンジン・オイルは除く)

使用個所	商 品 名	
マニュアル トランス アクスル	MR2 3S-GTEエンジン	キャッスル・ギヤオイルスーパー
	4WD車	
	上記以外	キャッスル・MGギヤオイルズスペシャルII
オートマチック トランス アクスル	4WD車を除く	キャッスル・オートフルードDII
	4WD車	キャッスル・オートフルードタイプT(トランスアクスル) キャッスル・ギヤオイルスーパー(トランスファ)
パワーステアリング	キャッスル・パワーステアリングフルード トヨタ・パワーステアリングフルードEH*	
アクティブサスペンション	トヨタ・アクティブサスペンションフルード	
ホイールベアリング	キャッスル・MPグリスNo.2	
サスペンション ボールジョイント部	キャッスル・シャングリーススペシャル	
ブレーキ	トヨタブレーキフルード 2500H	
冷却水	ロングライフクーラント(LLC)	
スーパーチャージャー	スーパーチャージャーオイル	

※MR2専用フルード

このようなときには……

ご旅行、長距離ドライブに出かけられるときは……

運行前点検 (P15) 全国サービス網 (P37)

旅先で、保証修理をお受けになるときは……

保証について (P2) 全国サービス網 (P37)

高速道路(自動車専用道路)でお困りになったときには…

全国サービス網 (P37)

ご自分で定期点検(6か月)をされるときには……

定期点検整備記録簿の記入 (P13、14) 点検整備方式 (P8)

点検整備のしかた (P16)

オイル交換、エレメント交換をされるときには……

整備のしかた (P18) サービスデータ (P35、36)

オイル交換、給油について (巻末)

タイヤ交換をされるときには……

整備のしかた (P22) ※取扱書「万一のときの処置」をお読みください。

ウインドウ・ウォッシャー液、冷却水(LLC)を補充されるときは…

整備のしかた (P19、29) サービスデータ (P35、36)

バッテリー液を補充されるときは……

整備のしかた (P25)

ワイパー・ゴムを交換されるときには……

整備のしかた (P30)

ターボチャージャー、ディーゼルをお買いもめになったときは……

点検整備方式 (P8) オイル交換、給油について (巻末)

※取扱書の「エンジンの止め方、かけ方」もお読みください。

長距離や悪路をよく走られる方のときには……

点検整備方式 (P8)

オイルや部品の交換時期や目安を知りたいときには……

オイル交換、給油について (巻末) 点検整備方式 (P8)

定期点検、車検の点検整備項目や交換部品を知りたいときには……

点検整備方式 (P8)

トヨタ自動車株にご相談されたいときには……

おクルマのご相談、ご意見は (P5)

トヨタ 自家用乗用車

ウイングダム セブター カムリ ビスタ
コロナ セリカ カリーナ カルディナ
MR2 カローラ スプリンター
コルサ カローラII ターセル
スプリンターカブリ サイノス
スターレット セラ

トヨタ自動車株式会社